



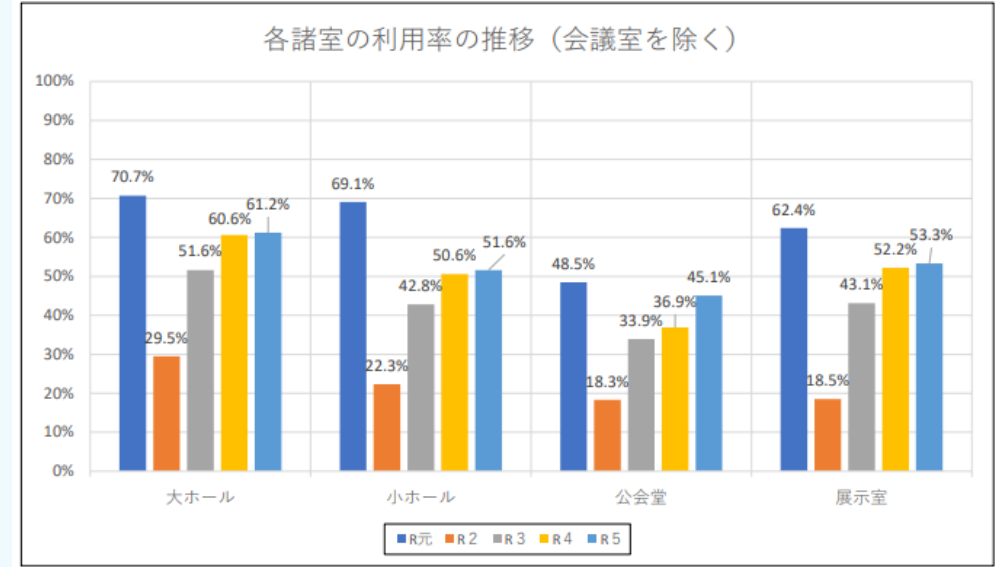
# 資料 6 現施設利用状況の分析

ASAHIKAWA CITY

# 現・旭川市民文化会館の利用状況分析



- 利用率（日単位）の利用実績は、令和7年度に開催した第6回検討会において「資料3」として提示済  
→ 検討会において、より詳細なデータ（区分単位での利用実績）や実際の来館者状況等の提示を求める意見



## 本検討のために、以下のとおり新たにデータを作成・分析

- 旭川市民文化会館管理業務において、受付管理用に作成している台帳データを基に、**利用区分単位での稼働状況を算出**
- +
- 旭川市民文化会館舞台設備操作等業務の報告から、**各ホールにおける客席使用状況（目視による推計）を抽出・追記**



# ①大ホールの利用状況分析

# ①-1 大ホール（1,546席）の利用実績（区分単位の稼働率）



➤ 区分単位の稼働率（=利用のあった区分数/利用可能区分数）

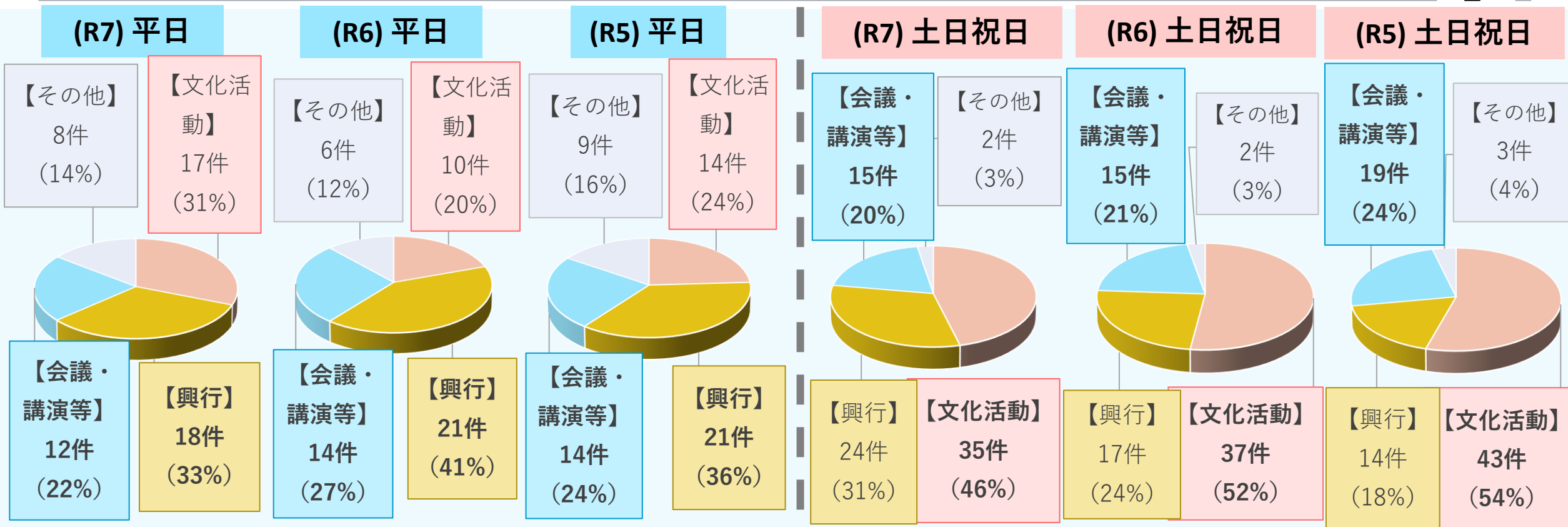
年度	区分	全日			平日			土日祝日		
		午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R7	日	54.4%			41.2%			77.7%		
	各区分	53.2%	57.9%	52.1%	38.3%	44.2%	41.2%	79.5%	82.1%	71.4%
R6	日	53.3%			38.7%			79.2%		
	各区分	49.8%	57.9%	52.1%	33.5%	42.6%	39.8%	78.6%	84.8%	74.1%
R5	日	56.9%			42.4%			82.0%		
	各区分	55.8%	60.3%	54.7%	39.5%	44.8%	42.8%	84.1%	86.7%	75.2%

- 全日で見ると50～60%程度だが、うち土日祝日は80%前後と現時点でも非常に高く、日程の選択肢に限りがあることから、大幅な利用拡大は難しいと思われる
- 一方で平日は40%前後と、利用拡大・稼働率向上の余地があると見込まれる



利用実績から、平日を中心に利用拡大・稼働率向上の余地がある

# ①-2 大ホール（1,546席）の利用実績（利用分野、平日／土日祝日）

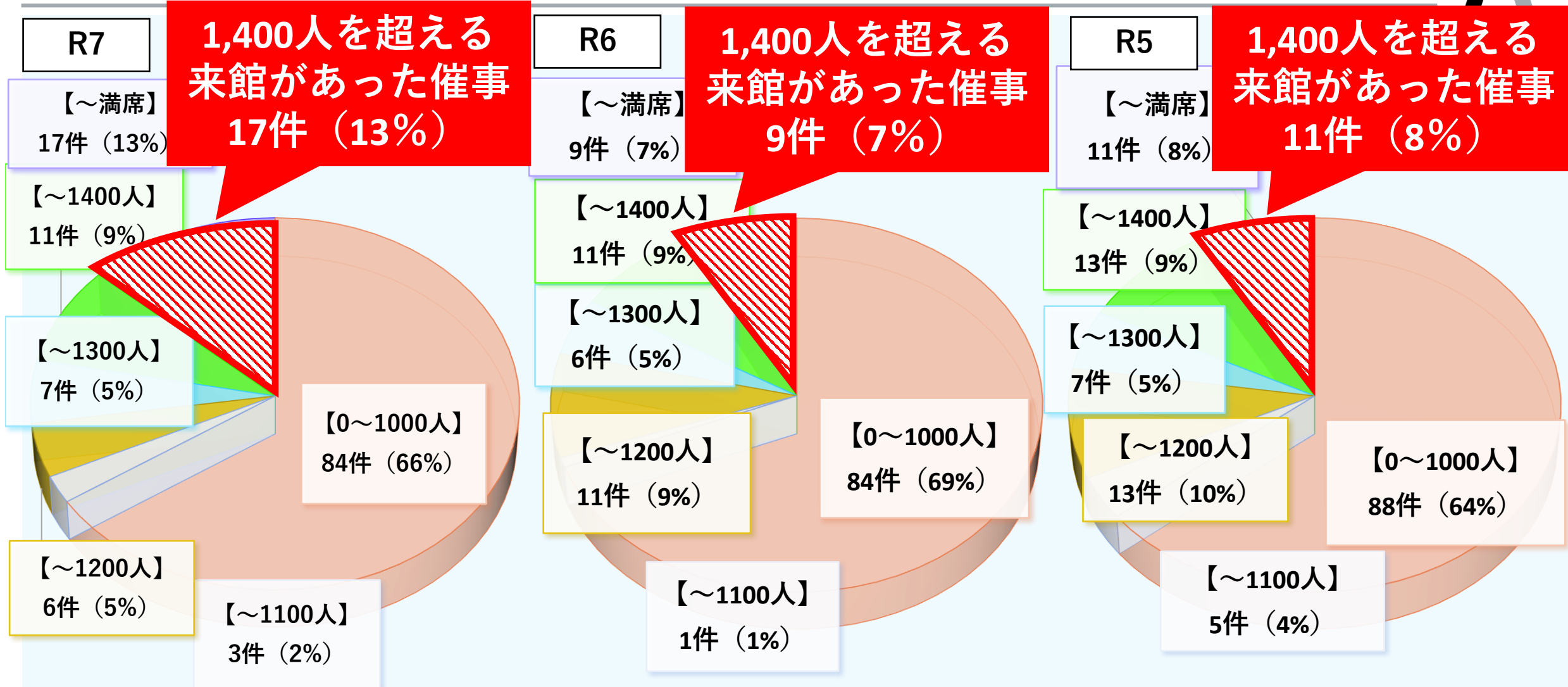


- 土日祝日は文化活動の割合が高い（市民の予約優先順位が高いためと思われる）
- 平日は興行の割合が若干高く、文化活動は少ない。会議・講演等は曜日に関わらず、概ね一定



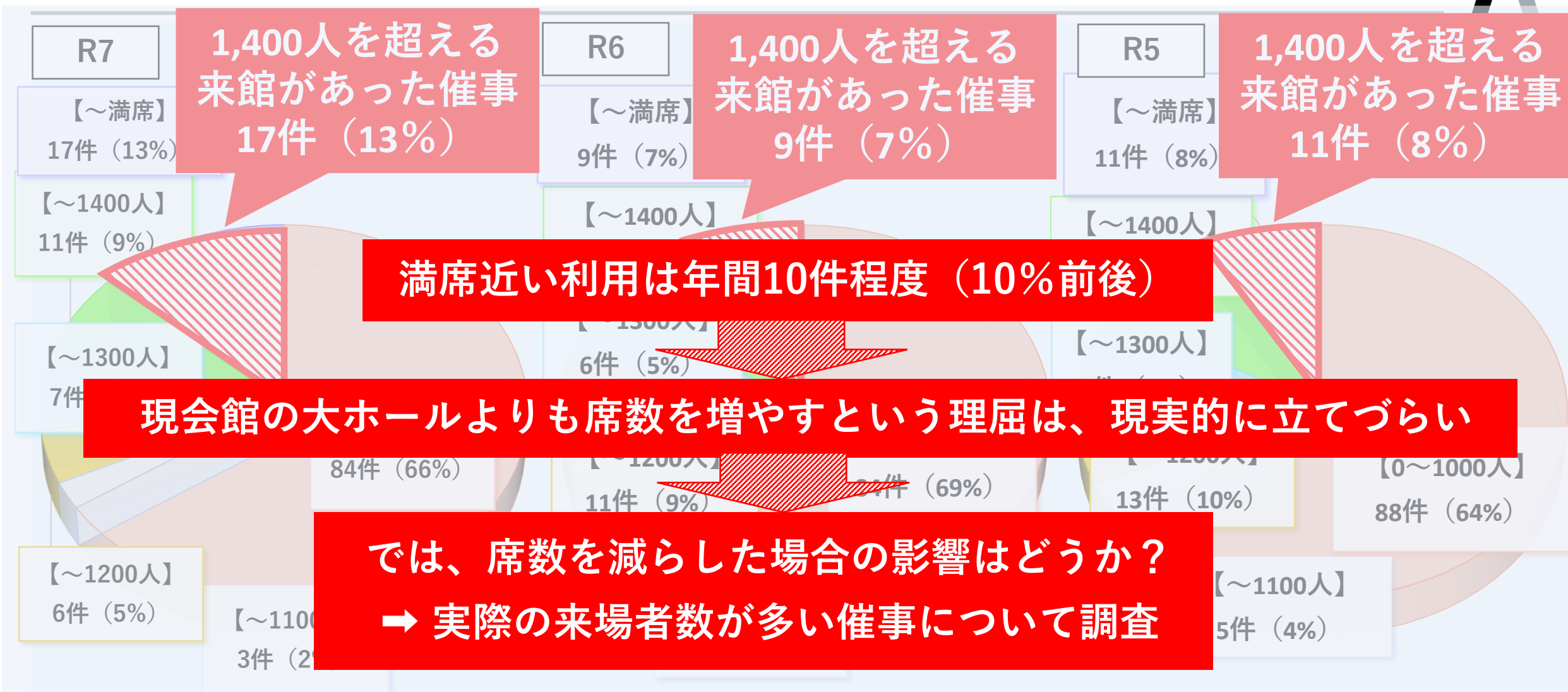
・ 平日は仕事等の影響もあってか、市民等の文化活動での利用は少ない  
 ・ 一方で興行事業は平日の方が多く、また会議・講演等は曜日に関わらず概ね一定であることから、平日の利用増を見込める余地があるものと想定

# ①-3 大ホール（1,546席）の利用実績（来館者数の実態）



※ 準備・リハーサルなど、見学者が入場しない形での利用は、分母から除外しています。  
 ※ 施設スタッフの目視による推計であり、正確な来館者数を計測したものではありません。

# ①-3 大ホール（1,546席）の利用実績（来館者数の実態）



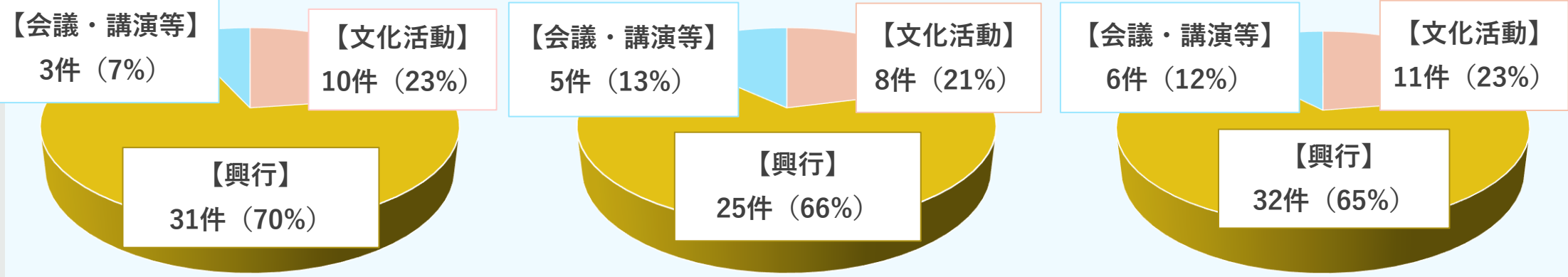
※ 準備・リハーサルなど、見学者が入場しない形での利用は、分母から除外しています。  
 ※ 施設スタッフの目視による推計であり、正確な来館者数を計測したものではありません。

# ①-4 大ホール（1,546席）の利用実績（来館者数別 催事内訳）

来館者数別の催事内訳

	(R7)	文化活動	興行	会議・講演等	その他	計	(R6)	文化活動	興行	会議・講演等	その他	計	(R5)	文化活動	興行	会議・講演等	その他	計
0~1,000		40	11	24	9	84		39	13	24	8	84		46	3	27	12	88
~1,100		2	0	1	0	3		0	1	0	0	1		2	2	1	0	5
~1,200		2	2	2	0	6		2	7	2	0	11		4	7	2	0	13
~1,300		1	6	0	0	7		2	4	0	0	6		3	4	0	0	7
~1,400		4	7	0	0	11		3	6	2	0	11		1	9	3	0	13
~満席		1	16	0	0	17		1	7	1	0	9		1	10	0	0	11
1,000~の計		10	31	3	0	44		8	25	5	0	38		11	32	6	0	49
合計		50	42	27	9	128		47	38	29	8	122		57	35	33	12	137

1,000人を超える来館があった催事の内訳



1,000人以上の来館があった催事の多くは興行事業であり、大ホールの席数を定める上で、興行事業者の意向調査が重要

## ①ー5 興行事業者の意向

※ 旭川市民文化会館で催事の開催実績がある複数の事業者を対象に聞き取り



- 現状の1,500席が地方としては適正規模であり、それ以上大きくしても人口と釣り合わず、集客が見込めない。
- コンサート等では音響席や照明席などで80席程度利用するため、その分を引いた席数で考える必要がある。
- 仮に旭川が1,800席程度になる場合、チケットを売り切る自信が無く、公演の数は減らすことになると思う。
- 北海道のホールツアーは、札幌開催は大前提として、もう一公演の会場を1,500席規模のホールから選択する。仮に旭川の新ホールが1,500席未満になる場合、ツアー会場としての優先順位は、帯広・釧路といった1,500席規模のホールを持つ都市より下になる。
- 仮に2,000席規模となった場合、アーティストにとってリスクとなり得るため旭川公演が増えることはなく、逆に今まで旭川で行うことができていた公演が減る可能性のほうが高いと思う。仮に一部客席を隠すなどして1,500席程度で使用できるとしても、ブランディングに関わるためアーティスト側が使用したがるらないと思う。
- 1,500席は死守してほしい。仮に1,300席になると、採算が取れなくなる催事が出てくる。
- 1,800～2,000席までになると、席を埋めるのが難しい。
- 開催場所の選定条件として大きな要素は、ホールの席数と周辺人口の2点。
- 現状の1,500席程度が一番良い。1,200席程度まで減ってしまうと、売上の見込みを立てるのが難しくなる。
- コンサートで利益を生む上で、1,500席は最低限の席数。

1,500席未満：収支が成立せず、利用減少の見込

1,800席以上：売り切ることが難しくなり、利用減少の見込

各事業者とも1,500席程度の規模が適正との意向

※ 旭川市民文化会館で催事の開催実績がある複数の事業者を対象に聞き取り + 関係事業者・団体から受理した要望

## ① - 6 コンベンション関係者の意向

- 大ホールは、少なくとも1,200～1,300席程度は必要。
- 学会で1,500席満席になることは少なく、何らかの大会のときくらいである。
- 旭川市内の宿泊キャパシティが3,500人程度であるため、最大2,000人が集まる催事等は、札幌へ行ってしまう。(旭川は航空機の便数・席数も限られている。)
- コンベンションの開催は多くが平日であり、他の催事と被りづらいと思う。
- 学会での利用を想定すると、大ホールには1,000～1,500席程度が必要。  
参加者総数が5～6千人程度の場合、1,000席以下では開会式や総会が開催できない。
- 民生委員大会、全国校長会、看護協会総会、郵便局長会等の大会では2,500席程度が必要になり、ホールではなくアリーナを使う場合もある。
- 配信は需要があると言われる一方で、接続数があまり伸びず、機材費や人件費（オペレーター）のほか、専用Webサイト立上などシステム構築に費用を要するため、併用する事例は減少傾向にある。
- 旭川でのコンベンションとしては、医療系学会の開催が主に想定されるが、大規模な基調講演を行うため、1,500人収容できる大ホールは必要。
- これまで以上に文化活動や地域の賑わいづくりを創出する施設として活用できるよう、機能強化を
- 大規模コンベンションが可能な2,000～3,000名を収容できるホールの建設

学会等を想定すると、最低1,000席（～1,500席程度）が必要

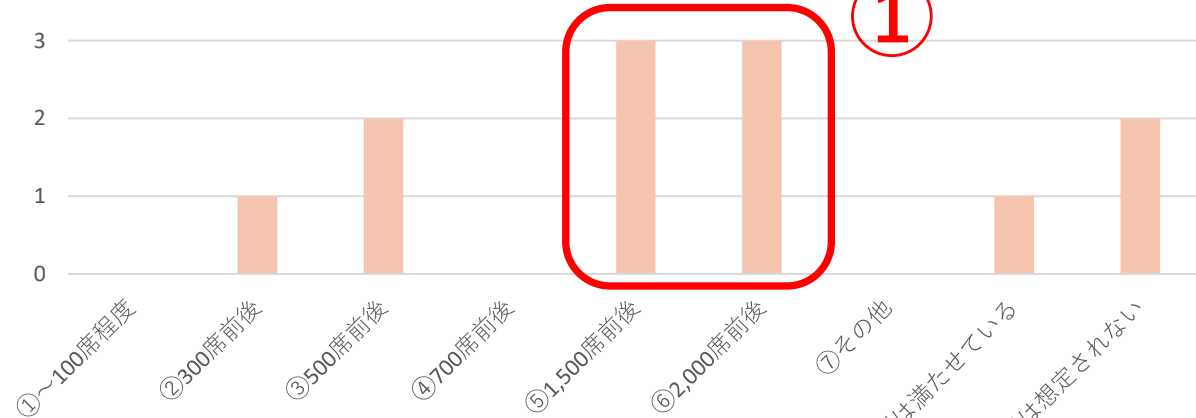
大会等を想定すると、2,000席以上のホールが必要 + 交通・宿泊等の面で課題

# ① - 7 周辺自治体の意向

※旭川大雪圏域連携中枢都市圏に参加する1市8町 + 検討会で話題に出た滝川市を対象として調査



新文化ホールに求める規模感 (※複数選択可)



## ① 求める施設規模

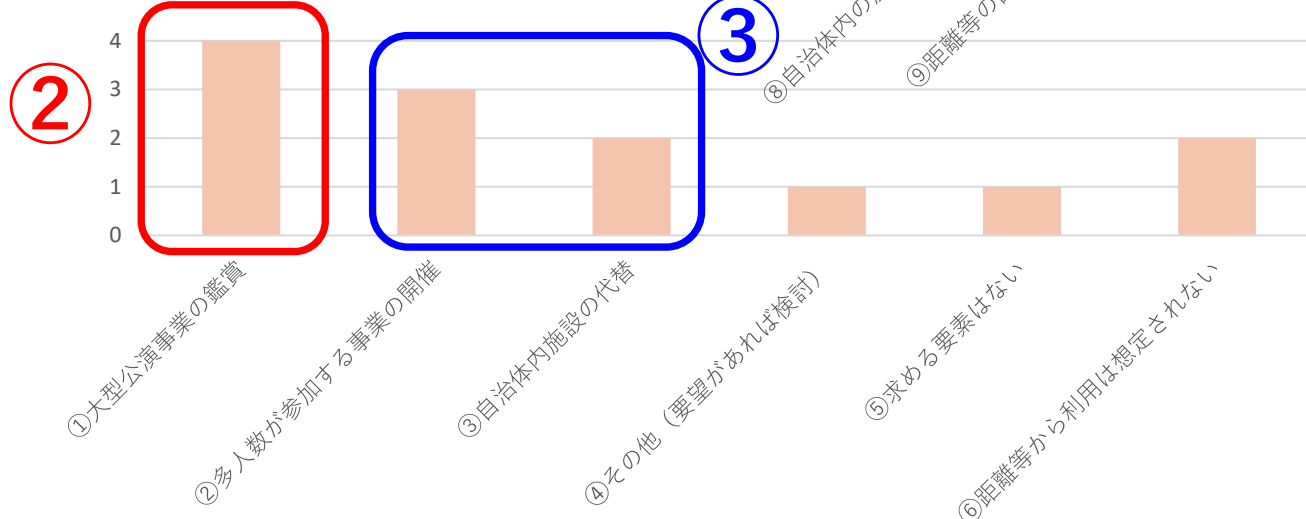
1,500席程度  
2,000席程度

## ② 求める役割

大型事業の鑑賞

自治体内施設で確保できない規模感として、  
現会館の大ホールと同等以上の「鑑賞」の場を希望する意見

新文化ホールに求める役割 (※複数選択可)



## ③ 求める役割

- 多人数が参加する事業の開催
- 自治体内施設の代替

➔ いずれも現状で具体的に想定される事業や利用が想定されるという意味ではなく、もし可能性があるとするれば...という想定に基づく意見とのこと

主に住民の「鑑賞」の場として、現・大ホールと同等以上の規模感を求める声が多い

## ①－ 8 検討会での議論



- 札幌市内の 2,000 席規模のホールにおける大型コンサートの席入り状況などを見ると、旭川市において同程度の規模感を備えるということにはならないだろう、という議論になった。
- 一方で、新文化ホールで活動しようとする人は、旭川近郊～道北全域まで、広範囲に見込まれるように思う。
- 以上 2 点を踏まえ考えると、大ホールの規模感について、札幌市の kitara や hitaru ほど大きくはなく、しかしあまり小さくすることも難しいといったことは、おのずと見えてくるように思う。
- 大ホールのキャパシティを定める要件になりそうな事業として、文化系部活動の全国大会が挙げられると思う。
- 中学校・高校の合唱の全国大会は、2,000 席以上かつ新幹線でアクセス可能であることが開催場所の条件で、一般の大会等は 2,000 席以上であることが条件
- 吹奏楽に関して、一般と大学の大会は持ち回りであり、2,000 席程度必要
- 旭川の場合、ホールの席数よりも宿や搬出入・送迎のバスなど、他の面で厳しいように思う。
- 「〇〇席では集客が難しい」という視点もあるだろうが、「〇〇席では、全席埋まっても収支がマイナスになってしまう」という視点も必要であるはず。
- どれだけ「集客しやすい席数」であったとしても、そもそも収支が成立せず、使われない施設になってしまっ  
ては意味がないのではないか。
- 1,800 席の施設が実際には 1,300 人くらいでしか使われないとなると、面積以外にも設備や維持管理など様々な面で無駄が生じてくる可能性もあると思われるので、そうした点も考慮し、バランスを取れる規模感の設定が必要になると思う。

## ① - 9 大ホール利用状況の分析結果（まとめ）

- 区分単位の稼働率  
土日祝日が80%前後である一方、平日は40%前後  
→ 平日の利用拡大・・・興行や会議・講演会等（コンベンションや企業利用を含む）を中心に想定
- 来館者数の実態  
満席に近い利用は年間10件程度（10%未満）  
→ 現状の席数よりも増やすという理屈は立てづらい
- 興行事業者の意向  
→ 1,500席未満：収支が成立せず、利用減少の見込み  
1,800席以上：売り切ることが難しくなり、利用減少の見込み
- コンベンション関係者の意向  
→ 学会等を想定すると、最低1,000席（～1,500席程度）が必要  
大会等を想定すると、2,000席規模のホールが必要＋交通・宿泊等の面で課題
- 周辺自治体の意向  
→ 主に住民の「鑑賞」の場として、現・大ホールと同等以上の規模感を求める声が多い



これまでの検討会での意見と合わせて検討すると、メインホールの規模感として、1,500席程度が望ましいものと想定



## ②小ホールの利用状況分析

## ②-1 小ホール（318席）の利用実績（区分単位の稼働率）



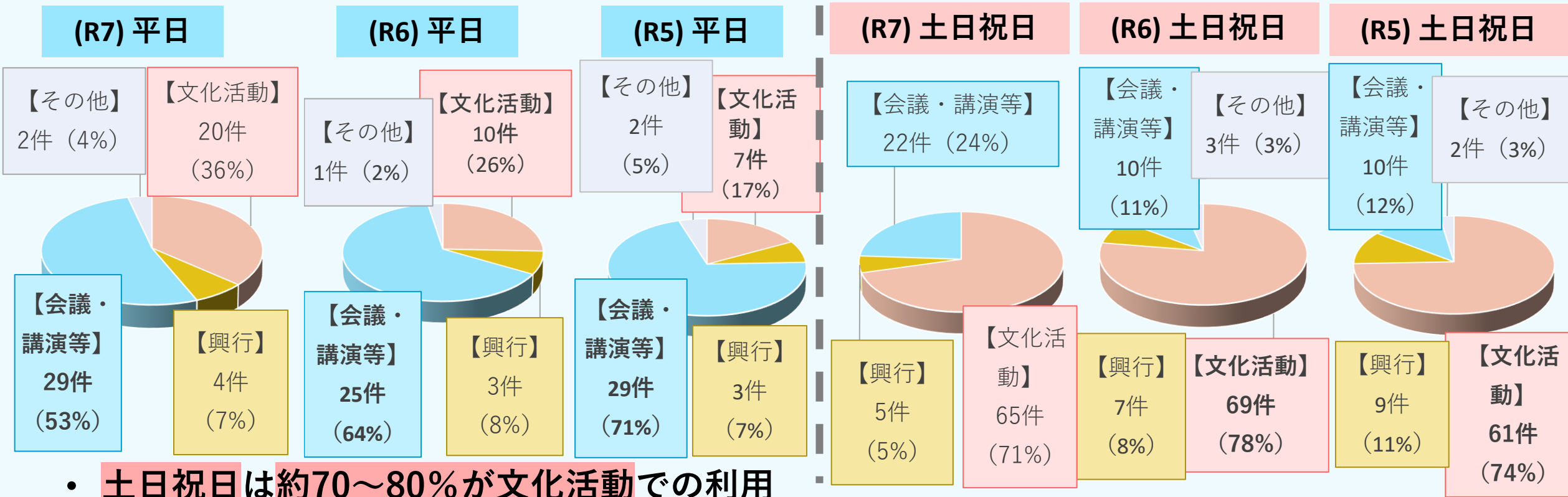
➤ 区分単位の稼働率（＝利用のあった区分数／利用可能区分数）

年度	区分	全日			平日			土日祝日		
		午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R7	日	51.2%			35.4%			79.1%		
	各区分	51.6%	56.9%	45.2%	33.0%	37.4%	35.7%	84.1%	91.2%	61.9%
R6	日	46.1%			28.3%			77.7%		
	各区分	45.8%	51.6%	41.1%	25.5%	30.0%	29.4%	81.7%	89.6%	61.7%
R5	日	43.3%			28.3%			69.4%		
	各区分	43.3%	49.4%	37.2%	24.5%	30.5%	29.9%	76.1%	82.1%	50.0%

➤ 土日祝日のうち特に午前・午後が80%前後と非常に高い一方、平日は各区分とも30%前後と大きな隔たりがある。

➡ どのような事業や席数で利用されているのかという点を踏まえて、平日を中心とした利用拡大・稼働率向上の余地について分析

## ②-2 小ホール（318席）の利用実績（利用分野、平日／土日祝日）



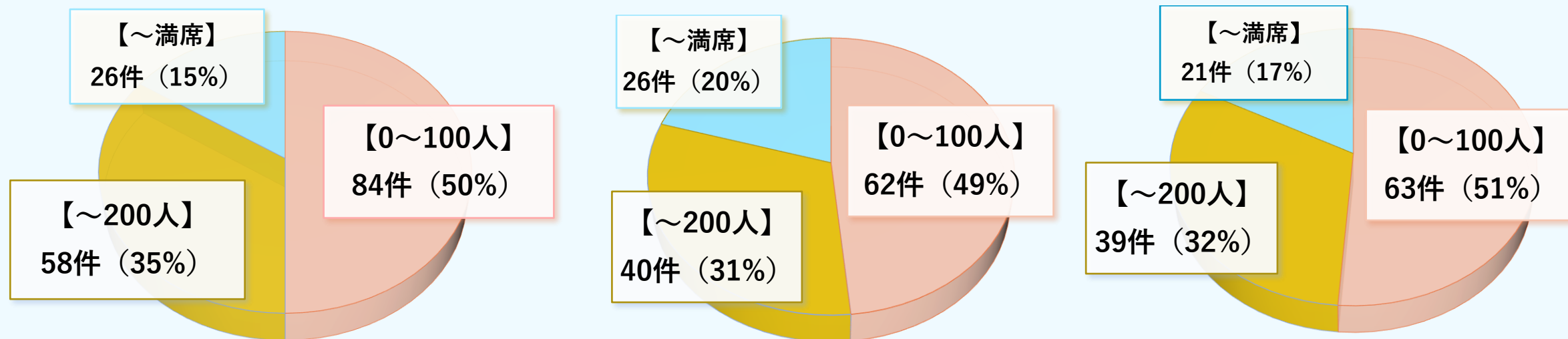
- 土日祝日は約70～80%が文化活動での利用
- 平日は文化活動が30%未満である一方、会議・講演等での利用が60%を超える  
→ 市民の文化活動は時間を確保できる土日祝日に集中し、平日は企業・団体等の利用が多い
- 興行は曜日問わず10%未満 → 興行に適した規模感でなく、利用拡大も難しいと見込まれる



平日の利用拡大に向け、会議・講演等での利用を促進することに加え、市民が平日にも気軽に利用できるような形を検討

## ②ー3 小ホール（318席）の利用実績（来館者数）

	(R7)	文化 活動	興行	会議・ 講演等	その他	計	(R6)	文化 活動	興行	会議・ 講演等	その他	計	(R5)	文化 活動	興行	会議・ 講演等	その他	計
～100		50	3	30	1	84		44	0	17	1	62		37	3	20	3	63
～200		45	2	11	0	58		24	2	12	2	40		23	3	12	1	39
～満席		13	3	10	0	26		11	8	6	1	26		8	6	7	0	21
合計		108	8	51	1	168		79	10	35	4	122		68	12	39	4	123

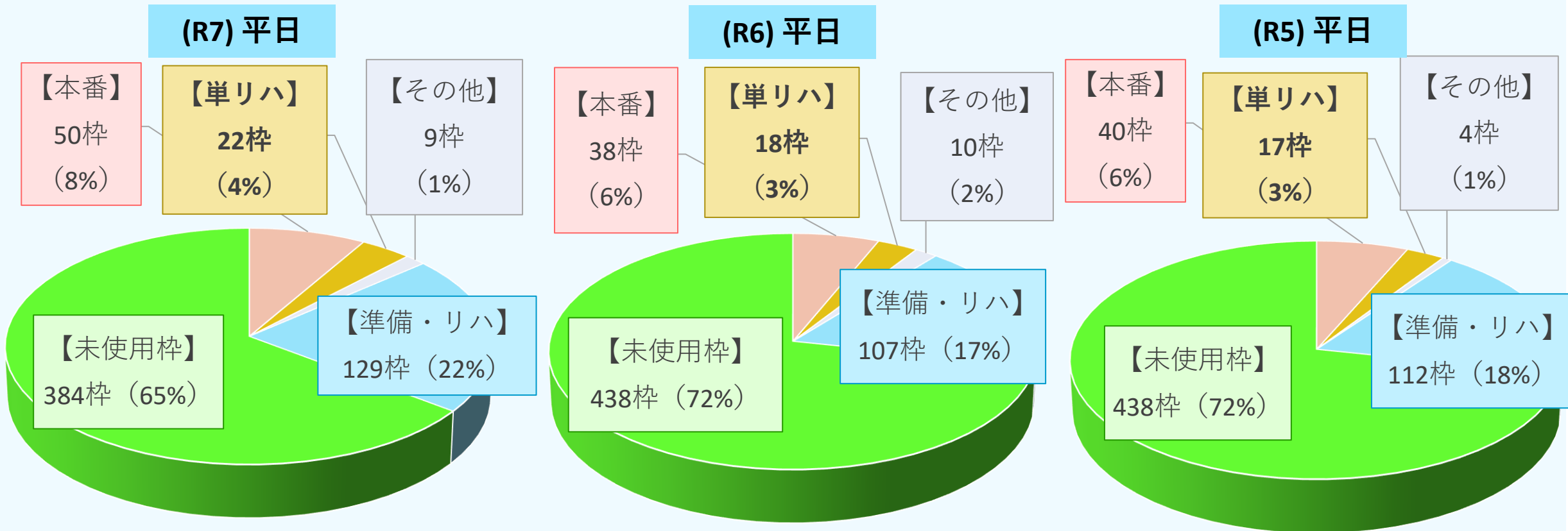


※ 準備・リハーサルなど、見学者が入場しない形での利用は、分母から除外しています。

※ 施設スタッフの目視による推計であり、正確な来館者数を計測したものではありません。

**200人以下での利用が全体の約8割を占める（100人以下が全体の半分程度）  
→ 主に文化活動や会議・講演等の場として、小規模な発表の場の需要がある**

### ③ー4 小ホール（318席）の利用実績（単独リハーサル）



- 平日において、**単独リハーサル**（本番を伴わない練習利用）での利用は数%程度  
 → **本番利用を阻害しない範囲において、利用拡大・稼働率向上の余地がある**

➡ **現状よりも、市民や文化団体等が練習やリハーサルなど、本番以外でも気軽に利用できるような施設を想定**

## ②ー5 検討会での議論

- 現・市民文化会館3階の大会議室にはステージがあり、会議に限らず、幅広い事業での利用を想定していたのかもしれない。しかし、ステージが常設であるために、むしろ使いづらくなってしまったと思う。
- ホールばかりに目が行きがちであるが、少人数の市民団体等が使用する場面についてもきちんと考えて準備することができれば、利用率は上がるかもしれない。
- 150～200人規模又は100人以下くらいの規模感で使えて、ステージや座席が可変式で平土間にできるなど、様々な規模・内容の活動に対応できることで、施設の敷居が低くなると良い。
- 規模の異なる「発表の場」があることで、様々な規模の活動が生まれ、多様性が高まると思う。
- 音楽関係での利用を考えると、最も需要が高いのは、100人規模のホール機能であると思う。
- 同程度の規模感の市内他施設として、180人規模のCoCoDe、100人規模の木楽輪などがあり、いずれも人気がある。
- 大ホール・小ホールだけでなく、中ホール的な位置付けの機能があるべき、という視点であると思う。
- 100席程度の規模感についても市民活動での需要が高く、市内他施設で同等規模の機能もあるが稼働率が高いとの意見があった。こちらは平場で良いか、ステージと客席が必要かといったスペックの課題もあると思われる。
- ある程度、音が良く聞こえないと使いづらいという面はあるが、100席前後というのは使いやすい規模感なのではないかと感じる。
- 一方で、各分野で活動している人口は、徐々に減少していると想像されることから、音楽など特定用途に特化した室ではなく、ダンスや他の催しものなど、多目的に使えるように整備しなければ、稼働率が低くなってしまわないだろうか。

## ②ー6 リハーサル室の利用実績（参考）

➤ 区分単位の稼働率（＝利用のあった区分数／利用可能区分数）

年度	区分	全日			平日			土日祝日		
		午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R7	日	27.8%			20.2%			42.2%		
	各区分	25.8%	34.7%	22.8%	17.1%	26.9%	16.7%	42.5%	49.6%	34.5%
R6	日	30.3%			16.1%			58.3%		
	各区分	32.3%	34.3%	24.3%	17.1%	18.2%	13.1%	62.5%	66.1%	46.4%
R5	日	32.1%			20.2%			54.0%		
	各区分	34.0%	37.2%	25.0%	21.3%	23.3%	16.2%	57.8%	62.9%	41.4%

- 現リハーサル室は防音性能がないことから、音を出す活動の際には、同フロアの部屋を全て借りる等の対応が必要。
- 大ホール楽屋通路への動線があることから、活動での利用だけでなく、ホールで催事を行う際の控室などに利用される場合も多い。

## ②ー7 小ホールの利用状況の分析結果（まとめ）

### ➤ 区分単位の稼働率

土日祝日の午前・午後が80%前後と非常に高い一方、平日は各区分とも30%前後

### ➤ 催事分野、平日／土日祝日の状況

土日祝日：約70～80%が文化活動での利用

平日：文化活動が30%未満である一方、会議・講演等での利用が60%を超える

➔ 平日の利用拡大・稼働率向上に向け、会議・講演等での利用を促進することに加え、市民が平日にも気軽に利用できるような形を検討

### ➤ 来館者数の実態

100人規模が約50%、200人規模が約30%で、200人を超える利用は約20%

➔ 主に文化活動や会議・講演等の場として、小規模な発表の場の需要がある

➔ 現状よりも、市民や文化団体等が本番以外でも気軽に利用できるような形を想定



- ・日常的な使いやすさを想定し、リハーサル室機能との統合を検討
- ・規模感についてはサブホールや周辺施設との住み分けを考慮し検討



## ③ 公会堂の利用状況分析

### ③ - 1 公会堂（717席）の稼働率



➤ 区分単位の稼働率（＝利用のあった区分数／利用可能区分数）

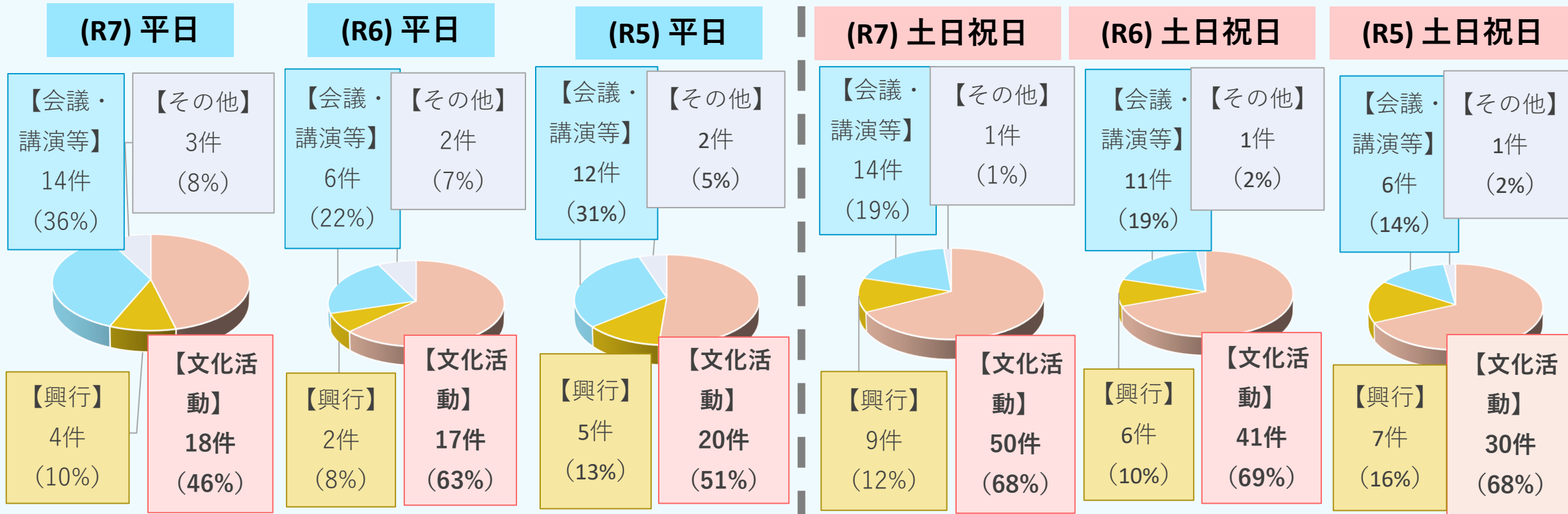
年度	区分	全日			平日			土日祝日		
		午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R7	日	47.4%			31.2%			74.8%		
	各区分	46.3%	51.9%	44.0%	27.9%	34.5%	30.8%	75.7%	81.7%	67.0%
R6	日	42.7%			28.0%			68.1%		
	各区分	42.9%	46.8%	38.5%	25.9%	31.5%	26.6%	71.1%	73.7%	59.6%
R5	日	38.5%			27.8%			56.9%		
	各区分	37.4%	41.5%	36.5%	25.3%	28.7%	29.2%	57.8%	63.8%	49.1%

➤ 土日祝日が高く平日は低いという稼働率の傾向は大・小ホールと同じだが、どちらも大・小ホールよりやや少ない。



どのような事業や席数で利用されているのかという点を踏まえて、平日を中心とした利用拡大・稼働率向上の余地について分析

### ③-2 公会堂（717席）利用実績（利用分野、平日／土日祝日）



- 平日・土日祝日とも、文化活動での利用が多い（平日は50～60%、土日祝日は約70%）  
一方で、興行は平日・土日祝日とも利用が少ない（10%前後）

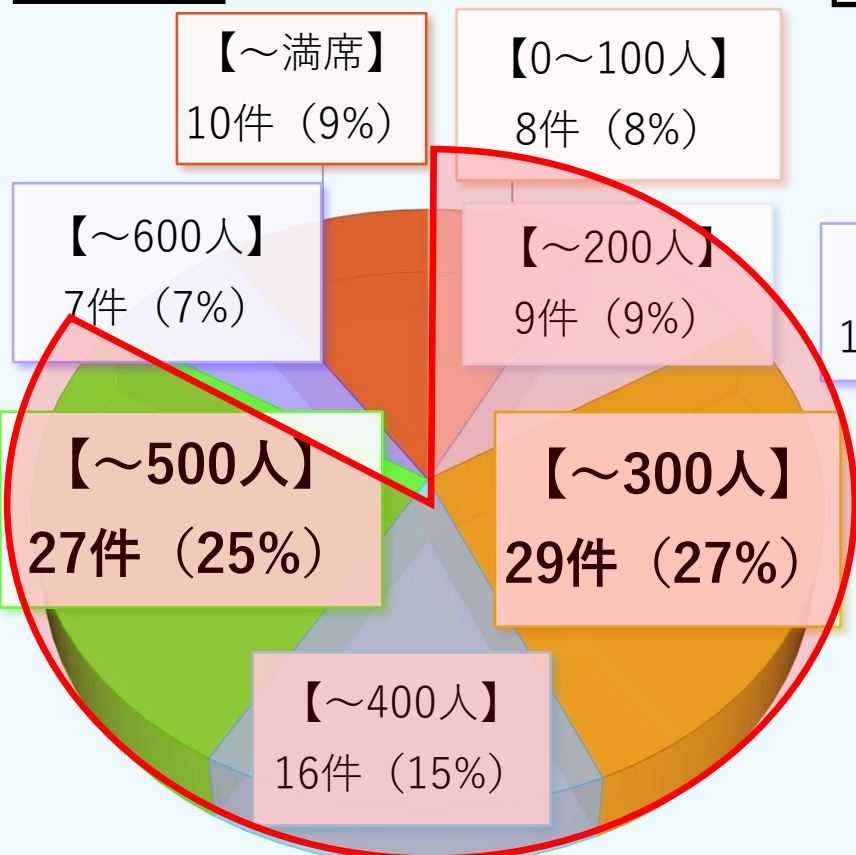


- 曜日に関わらず、市民等による文化活動での利用が中心であり、さらなる利用拡大に向け、使い勝手の良い規模感の検討が必要
- 興行については、収支が成立する規模感であるのか、事業者等に確認

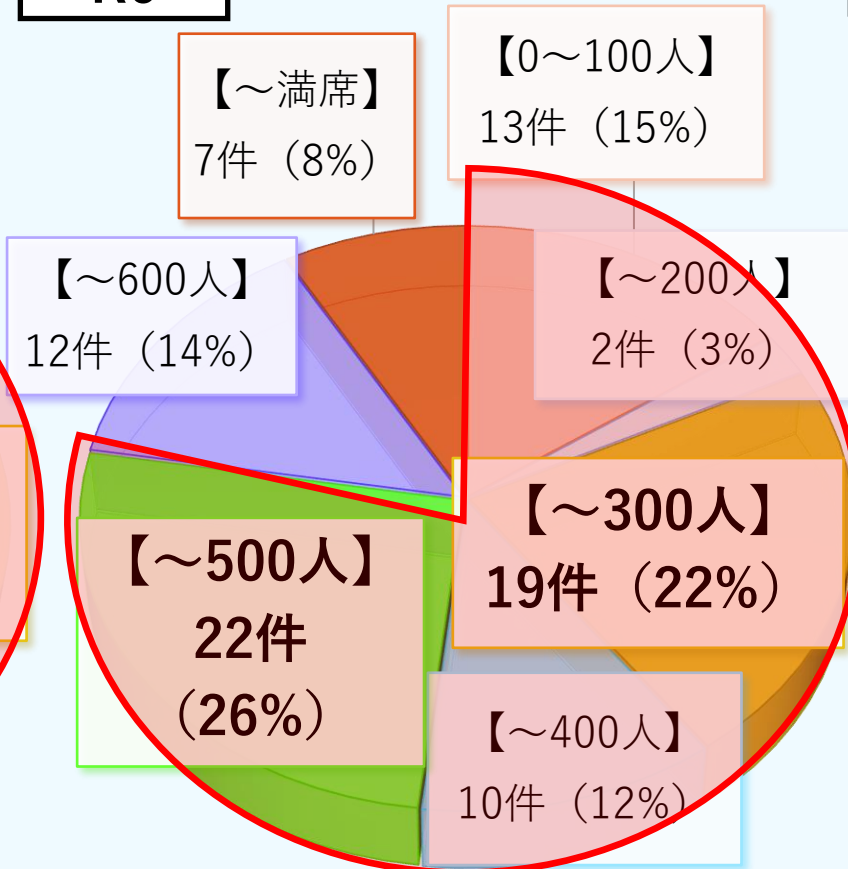
### ③-3 公会堂（717席）の利用実績（来館者数の実態）



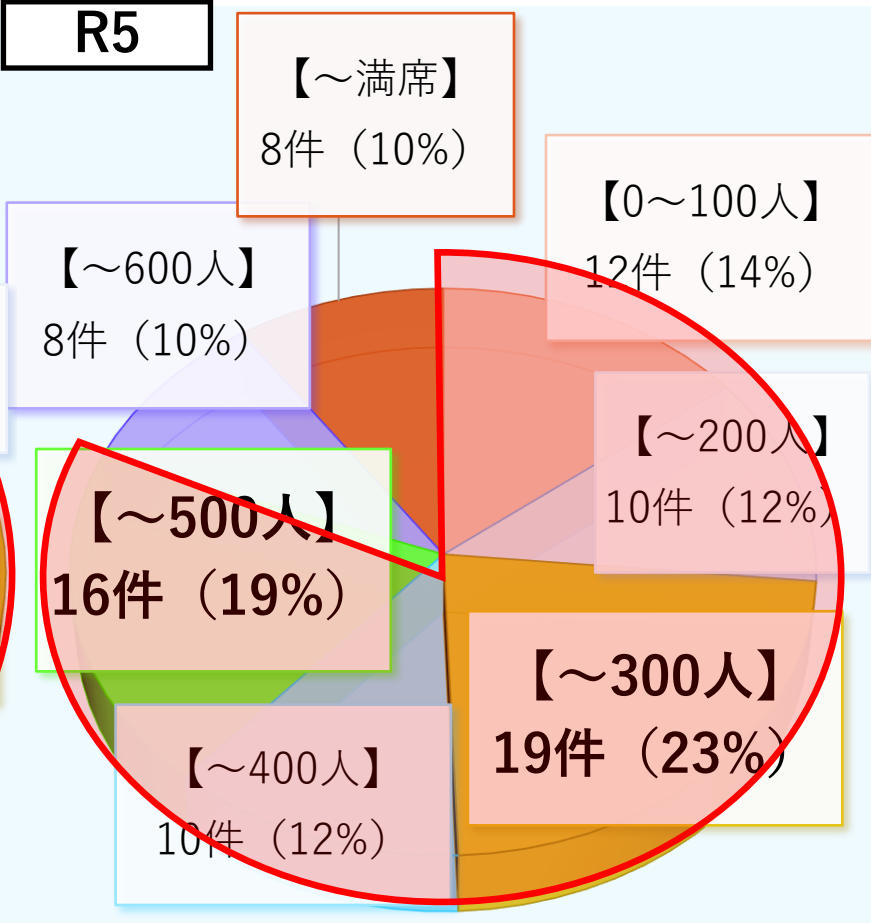
R7



R6



R5



※ 準備・リハーサルなど、見学者が入場しない形での利用は、分母から除外しています。  
 ※ 施設スタッフの目視による推計であり、正確な来館者数を計測したものではありません。



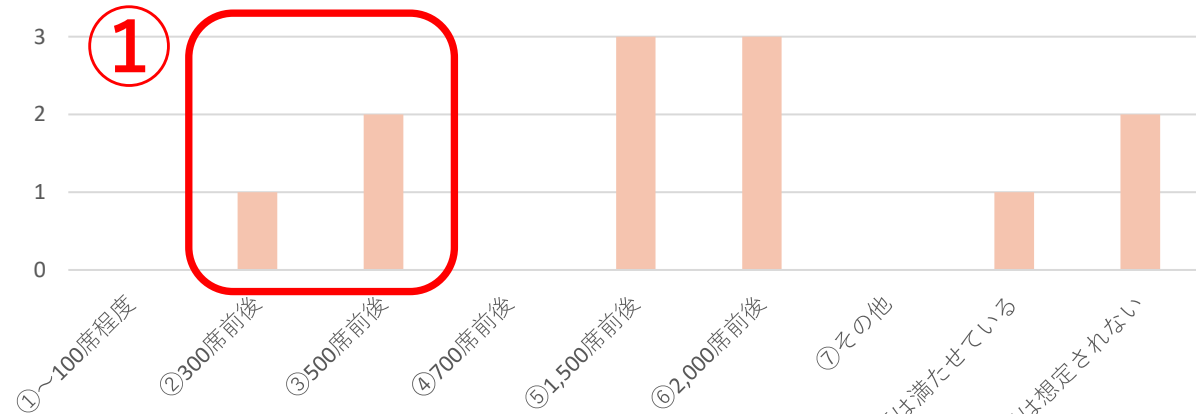
**500人以下での利用が多く、全体の約80%を占める  
 （中でも300人規模、500人規模の催事が多い）**

# ③ - 4 周辺自治体の意向

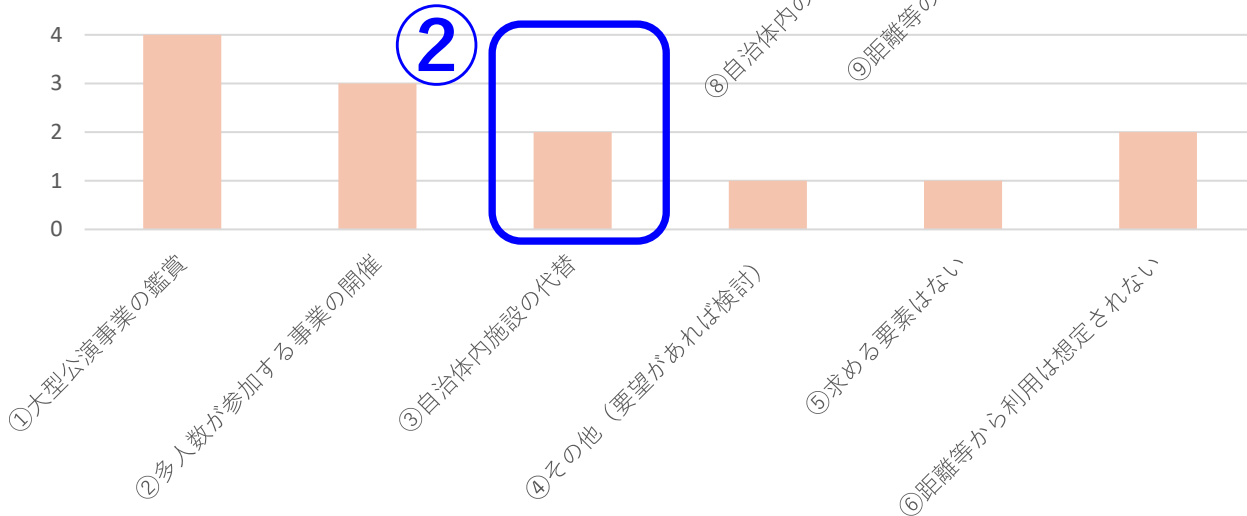
※旭川大雪圏域連携中枢都市圏に参加する1市8町  
+ 検討会で話題に出た滝川市を対象として調査



新文化ホールに求める規模感 (※複数選択可)



新文化ホールに求める役割 (※複数選択可)



## ① 求める施設規模

300席程度

500席程度

## ② 求める役割

- 自治体内施設の代替

➔ 現状において、各自治体内の施設が、住民が予約を取れないほど混雑しているということはないものの、規模感が近いホールになれば、希望する日程等次第では、相互に代替として機能し得るのではないか、といった意図であるとのこと。

「活動」の場としては、各自治体内の施設規模に近い選択肢を希望する意向

### ③ー5 周辺自治体のホール施設

自治体名	施設名	ホール数	席数	ホール以外の施設機能
鷹栖町	たかすメロディーホール	1	502	
東神楽町	複合施設 文化ホール「花音」	1	450	会議室、防音室、調理実習室
当麻町	公民館まとまーる	1	303 (450)	会議室
比布町	比布町農村環境改善センター	1	300	多目的会議室
愛別町	蔵KURARAら	1	100	多目的ホール（ギャラリー等にも使用可）
上川町	上川町かみんぐホール	1	500	ギャラリー、会議室、リハーサル室、図書室、視聴覚室、ロビー、控室、自習室
東川町	東川町複合交流施設せんとぴゅあⅠ	1	350	リハーサル室
	地域交流センター	2	200・100	運動室
美瑛町	美瑛町町民センター 多目的ホール「美丘」	1	330	会議室、研修室

### ③ー6 旭川市内のホールを持つ公共施設



施設名	ホール数	席数	ホール以外の施設機能
市民文化会館	2	大：1,546 小：318	展示室、リハーサル室、会議室、和室
公会堂	1	717	多目的室
大雪クリスタルホール	1	597	リハーサル室、レセプション室、会議室
旭川市市民活動交流センターCoCoDe	1	180	会議研修室、作業打合せ室、事務作業室、屋外広場
神楽公民館・木楽輪	1	100	(神楽市民交流センター)
建設労働者福祉会館 (サン・アザレア)	1	156	研修室 (和室・洋室)、サークル室

### ③ - 7 興行事業者等の意向

※ 旭川市民文化会館で催事の開催実績がある  
複数の興行事業者を対象に聞き取り



- クラシック公演は、経費のほとんどが出演料であり、500席程度で成立する出演者もいれば、1,500席程度が必要になる出演者もあり、出演料と席数から、チケット代金を設定している。
- どの程度の席数が丁度良いと明言することは難しいが、500席程度であると、多くの場合において採算の見込みが立てやすい。  
→ 旭川では、クリスタルホールをよく使っている。
- 500～600席の会場は業態的に丁度良く、演劇等で使用する可能性はある。
- 演劇の鑑賞には小ホールくらいの席数が一番良いが、採算が取れない。500席～600席程度が理想。
- 現在の公会堂は間口が狭く、両袖90席くらい売れないときもある。
- 舞台上（袖舞台等も含む）の面積も狭い。



クラシック音楽などの催事のうち出演者が少ない催しや、演劇などで使用する  
場合、500～600席前後であると都合が良い  
→ 大雪クリスタルホールとの住み分けを考える必要がある

## ③ー 8 公会堂の利用状況の分析結果（まとめ）

### ➤ 区分単位の稼働率

土日祝日は比較的に利用されている（50～70％程度）が、平日の利用が少ない（20～30％程度）

➔ 平日を中心に利用拡大・稼働率向上の余地がある

### ➤ 催事分野、平日／土日祝日の状況

曜日を問わず、市民等の文化活動による利用の割合が高い（50～70％程度を占める）

➔ 利用拡大に向け、文化活動で使い勝手の良い規模感について検討

### ➤ 来館者数の実態

➔ 500人以下での利用が多く、全体の約80％を占める（300人規模、500人規模の催事が多い）

### ➤ 周辺自治体の意向

➔ 自治体内施設の代替として、当該施設と規模感が近いホールになれば、相互に代替として機能し得るのではないかとの意見

### ➤ 興行異業者の意向

➔ 500～600席規模であれば、出演者が少人数のクラシックコンサートや、演劇等での収支が成立しやすい傾向がある

- ・ メインホールが複数階層になる場合は、1階席のみ利用時との住み分けも検討
- ・ サブホールの規模感は、小ホールの利用状況分析も踏まえて検討



## ④ 展示室の利用状況分析

# ④-1 展示室の利用実績

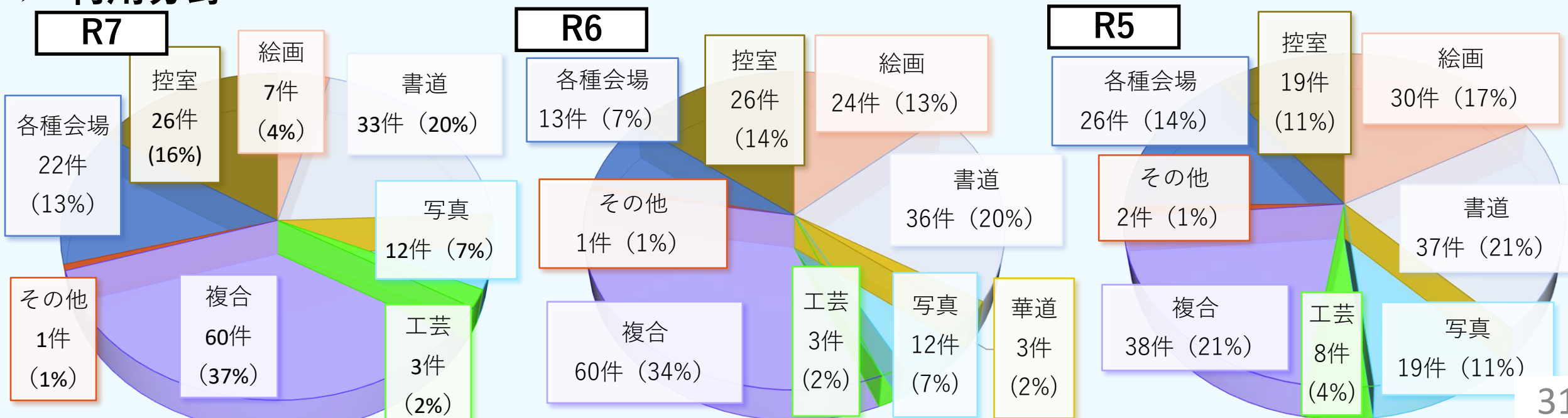


## ▶ 利用実績（日単位）

年度	区分	全体	平日	土日祝日
R7	利用率	49.4%	42.5%	60.3%
R6	利用率	53.5%	47.0%	65.5%
R5	利用率	53.3%	47.9%	63.2%

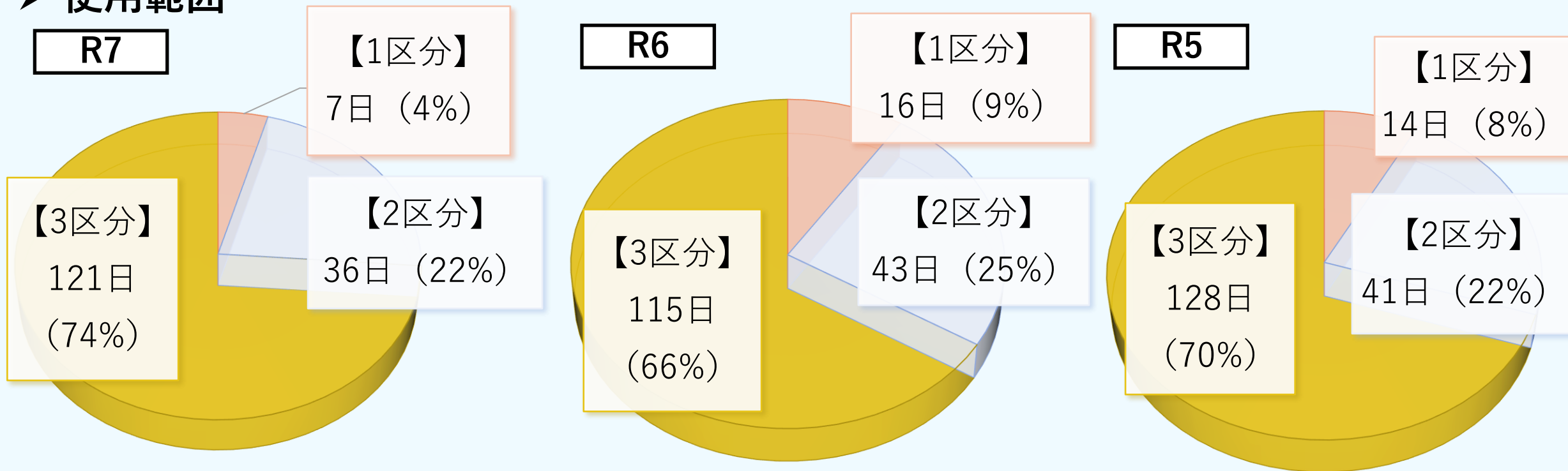
※ 展示室は1日単位での貸出のみであり、連続して10日まで貸出可

## ▶ 利用分野



## ④-1 展示室の利用実績

### ➤ 使用範囲



- 展示室は使用範囲（1～3区分）に応じて料金が変わるが、70%程度の利用日程において、3区分全てを使用している

- **利用状況から、現在展示に使用されている面積と同程度は必要か**
- **現在は1区分でも使用されていると、他の区分は使用不可となってしまうが、複数の区分で同時に催事が行うことができれば、稼働を高めることにつながるのでは**